

平成29年度第5回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成29年9月26日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 京都市立病院 本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹，黒田 啓史，桑原 安江，大森 憲，位高 光司，山本 壯太，
能見 伸八郎，木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則
事務局 阿部経営企画局次長，長谷川担当部長，大島担当副部長，榎木担当副部長，
高橋経営企画課長，石田総務担当課長，澤井管理PFI 担当課長，北川京北病
院事務長

1 開会

2 報告等

(1) 地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会結果報告

資料1に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 「安定した資金収支，資産の有効活用」の項目，「地球環境に配慮した持続可能な発展への貢献」の項目がB評価のままではなぜか。
 - 前者については，売上は伸びたものの，キャッシュフローについては，厳しい状況が続いていること，また，ダヴィンチ等の高額な医療機器については，今後一層の利用を図る必要があることからB評価としている。
後者については，ゴミの分別は進めているものの，減量が進んでいないことを反映したものである。
- 乳腺外科は夕方まで診療を行っているとのことだが，他の診療科でも行っているか。
 - 他の診療科でも午後以降の予約診に対応しているが，特に乳腺外科では働く若い女性の受診者が増加していることを踏まえ，働いている方が受診しやすい時間帯にも診療時間を設けたものである。
- 医療安全に係る項目がA評価に変わっているが，具体的には何が変わったのか。
 - 同規模の病院での医療安全レポートの提出件数の平均と言われる3,000件を目標に取り組んできたが，その目標を達成したこと，また，重大なアクシデントの割合が少なかったことからA評価としたものである。ただし，医師からのレポートはそのうち5%程度しかないことは課題と考えている。
- 医師からのレポートを増やすように取り組んでもらいたい。
- 全ての項目でA評価となっているが，特に強みを持った項目については，Aよりも上の評価といえるぐらいの取組を行ってほしい。また，職員満足度の評価がBからAに上げられるよう取り組んでほしい。
- 京北病院の取組は，他地域と比べても進んでいるとアピールできる項目なので，今後も取り組んでいただきたい。また，戦略的広報についても，院内コンサートをはじめ市民目線のサービスにもっと取り組み，広報につなげていただきたい。
- 先日，医療と介護，大学との連携など，先進的な取組を行っているメイヨークリニックを視察してきたが，京北病院においても市立病院との連携など，ひけをとらない素晴らしいものがある。

(2) 経営状況月次（7・8月分）報告、病棟・病床編成の変更について

資料2, 3に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 重症度、医療・看護必要度の低下については、相対的に、症状の軽い患者さんが増えているようだが、努力して改善できるものか。
 - 紹介患者や救急車搬送からの入院を増やす取組に力を入れるとともに、状態が回復した患者の退院調整に取り組み、回転率を上げてまいりたい。
- 救急車搬送からの入院が減少している理由は。医師が足りないのか。
 - 医師は充足している。救急車が重なった時や、比較的病床利用率が高かった時に断った事例のほか、例えば、整形外科や脳神経外科で予定手術が埋まっている時に、手術をともなう可能性がある症例は断らざるを得なかった事例がある。この課題の解決には、救急を担当する医師だけではなく、必要な検査を効率よく行い、早期に入院や帰宅につなげ、救急車を受け入れられる状態にすること等、救急室を効率よく回すための見直しも必要であると考えている。
- 現場や医師の配置、運用に問題はないか。他院のベンチマークは把握しているか。
 - 9列の当直以外にオンコール体制もとっており、より応需率を高めるために、適宜見直しを行っているが十分ではない点もある。
- 優れた応需率を出している病院がどのような運用を行っているかを参考にしてほしい。
- 総合病院として応需率82%は低い。
- ICUのベッドを減らしたことが断りにつながっていないか。
 - ICU満床による断り事例はない。

(3) 月次収支（7月分まで）報告

資料4に基づき、阿部経営企画局次長から説明。

- 6月の給与費が増加している要因は。
 - 退職にともなう退職費用が発生したことによるものである。
- 昨年度と比べて経費が増加しているようだが、要因は分析できているか。また、薬品費の増加については、半期ごとの値引交渉で純損益の赤字をカバーできるか。
 - 売上伸長にともない、業務量が増加しており、SPCへの検査等の委託費用のほか、機械の保守契約の変更や被服の更新にともなった契約内容の変更により、経費が増加している。また、薬品費の値引交渉だけでは赤字分はカバーできない。
- 京北病院の月次収支をみると、赤字が常態化している。キャッシュが減少し続けていることを懸念している。京北病院の経営改善が急務である。

(4) 地方独立行政法人法の改正について

資料5に基づき、阿部経営企画局次長から説明。

3 閉会